



京都市長 門川 大作

京都には、世界に誇る多くの宝物があります。山紫水明の自然、美しい町並み景観、歴史と伝統が息づく伝統行事や我が国を代表する貴重な文化財など、枚挙にいとまがありません。

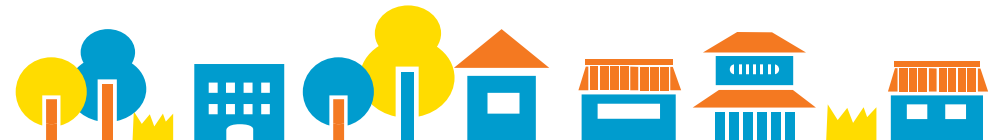
でもそれらにも増してかけがえのない宝物。それは、匠の技や暮らしの知恵、まちづくりへの高い志を持つたくさんの市民の皆様が存在です。

そんな優れた人材の宝庫・京都ならではの、市民の皆様の知恵と力を結集し、個性と活気あふれる地域のまちづくりを進めることで、日本の財産、世界の宝物としての京都のまちの魅力に、更なる磨きをかける。そうした思いを込めて、この「まちのビジョンづくりのススメ」を作成しました。

自分たちの地域の様々な問題を解決し、より一層心地よい、魅力的なまちにしていく。こうした地域のまちづくりの主役は、そのまちで暮らし、働く皆様です。

この冊子には、市民の皆様が主体となって、“自分たちのまちをどうしていくのか”、“その実現のために何から取り組んでいくのか”、そのようなことを地域ぐるみで考え、「まちのビジョン」としてまとめ、まちづくりを継続的に進めていただくためのポイントを記しています。

市民の皆様がそれぞれの地域で、「このまちに住んでよかった」、「これからこのまちで働きたい」、「やっぱりこのまちが大好き」と誇りと愛着を持つ。そんな、お一人お一人にとって“宝物のような地域”が、本冊子が活用されることによって京都でますます増えていくことを願っています。



はじめに

自分のまちをよくしたい

…という思いは誰でも持っておられるのではないのでしょうか。

まちをよくするには、

- まちのいいところをさらによくして、
- 気になるところを改善する

ことが大切です。

そのために、

- まちのみんなで考えて、なるべくたくさんの人で取り組むこと
- 考えたことを実行に移すこと

も、とても大切なことです。

この冊子では、「自分のまちをよくする」ための
きっかけやコツを紹介します。



\まちの/ ビジョンづくりのススメ

第1章 「まちをよくする」ために

- 06 1. どうすればいいの？
- 08 2. 何からすればいいの？
- 10 3. 誰がするの？
- 12 4. 「まちのビジョン」をまとめよう！

第2章 「ビジョン」を実現するために

- 16 1. たくさんの人に呼び掛けるコツ
まず、思いのある人が集まりましょう
つながりづくりを意識して取り組みましょう
- 22 2. 思いを共有するコツ
- 24 3. まちを知るためのコツ
- 26 4. まちの人の意見を集めるコツ
まちの人に伝える方法
- 30 5. 「ルール」も活用する
- 32 6. 続けていくコツ

事例集

- 34 修徳学区の取組
- 36 城巽学区の取組
- 38 本能学区の取組
- 40 明倫学区の取組
- 42 有隣学区の取組
- 44 姉小路界隈を考える会の取組
- 44 大原小出石町自治会の取組
- 45 四条繁栄会商店街の取組
- 45 西竹の里町テラスハウス自治会の取組

参考

- 46 いろいろな「まちのルール」や制度
法律に基づく仕組み
任意の「ルール」
地域景観づくり協議会
まちづくり活動支援事業
- 48 相談してください！





第1章

「まちをよくする」 ために



自分の暮らすまちを，
もっといいまちにするために，

- どうすればいいか
- 何からすればいいか
- 誰がするのか

を考え，
「まちのビジョン」として
まとめましょう。



「まちをよくする」ために

① どうすればいいの？

まちのいいところや、自慢、強み、
気になるところについて、考えてみましょう！

「もっといいまちにする」には、

まちのいいところ
をさらに
よくして、

気になるところ
を改善する

が必要です。

京都のまちは、「わがまち自慢」にこと欠かないところです。

大きな声で自慢されてはいなくても、「これは他のまちに負けへんで！」ということがどこのまちにもあるのではないのでしょうか。

一方で、「ここが気になる」「こうなったらもっといいまちになるのに」というところもあることでしょう。

他の人はどう思っているか、まちの人と話し合ってみましょう。

まちにはいろいろな人がいて、いろんなことを考えておられます。でも、話し合ってみると、けっこう同じようなことを考えている人も多いのではないのでしょうか。

うちのまち
どーしたらいいの？



考えてみよう！

考え始めるコツは、
なるべく身近なことから考えることです。

たとえば…

人



まちで暮らす
「人」のこと

もの



まちにある
「もの」のこと

できごと



最近のできごとや
気になること

昔と今



昔のまちと今のまちを
比べてみる



まちのことをみんなで考えてみよう

昔から住んでいる人が話される、
わがまちの歴史や由緒、暮らしの思い出、
昔の景色…。最近、移り住んできた人
だからこそわかるまちの魅力…。



いろんな人と話し合ってみよう

子どもからお年寄りまで、なるべく
たくさんの幅広い人で考えて、伝え合っ
てください。

10人の思いを伝えあったら、まち
の魅力は100倍に。

100人の思いを集めれば1000倍
に広がります！

「まちをよくする」ために

② 何からすればいいの？

「いいところ」「気になるところ」をどうしたら、
もっといいまちになるか、まちの人で話し合しましょう。

こんなまちになったらいいな！

いいところや気になるところが見えてきたら、それをどう
したらよりよいまちになるか、まちの人で話し合いながら考
えてみましょう。

よりよいまちにするためには、まちのいいところを活用し、
気になるところを改善していくことが必要です。



いいところを活用しよう！

静かな住環境や、色彩豊かな自然、助け合えるご近所
づきあい…。

まちのいいところがあることで、まちに愛着を感じて
おられると思います。

例えば、いつも何気なく通っている道に立っている
石碑に書かれた言葉の意味を知ったとき、その場所が
特別な意味をもって感じられるかもしれません。

実は、うちのまちには全国に誇れるようなすごい職人さんがおられる！とい
うことがあると、誰かに紹介したくなることもあるでしょう。

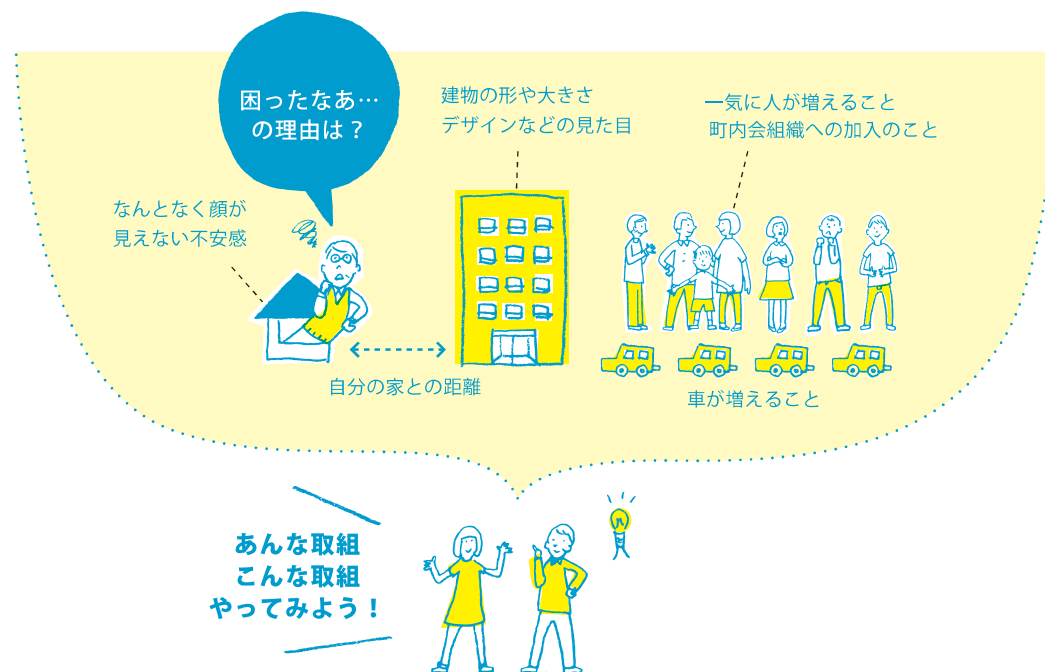
そんな気持ちを独り占めせず、まちの人やまちを訪れる人に伝えていきましょう。



気になるところ、困っていることを改善するために

気になるところ、困っていることを改善するためには、まず、何が気になっ
ているか、何に困っているかの理由を考えてみてください。

例えば、マンションの建設や住宅地開発などによって、たくさんの方が一
気に入ってくるような、「困ったなあ…」の場合の理由を考えてみましょう。



上の図のように、いろいろと出てくるかもしれません。

理由が見えてくると、それぞれの問題にどうやって取り組んでいくかアイディア
を出せるようになってきます。



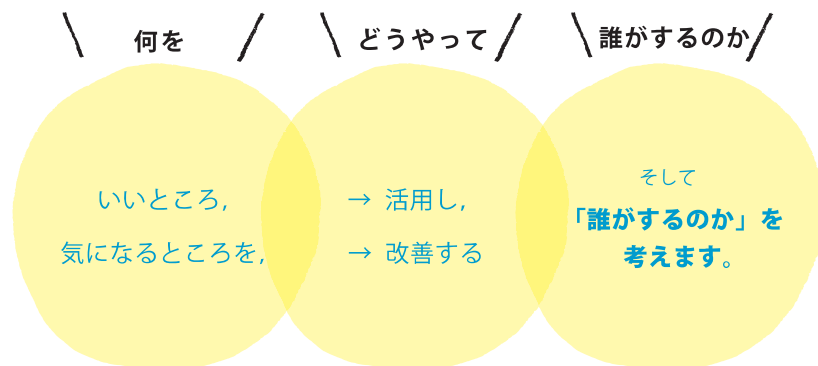
整理してみよう！

何から取り組んでいくのがよいか、考えたこ
とを整理して優先順位をつけてみましょう。そうす
ると、関連している問題もあるかもしれませんし、
一見明確だと思っていた問題でも、別の視点から
の問題が見えてくるかもしれません。

「まちをよくする」ために

3 誰がするの？

これまでに考えたことを、
「誰がするのか」という視点はとても大切です。



これまでに考えたことを、主体となって進める人が「誰か」ということについて、役割を考えてみましょう。

「役所」がすべきこともたくさんあるかもしれません。

その中には、「まちの人」と一緒に考えることもあるかもしれませんし、もちろん「まちの人」自身が進めることもたくさんあるでしょう。

「まちの人」とは誰か？

少し広い範囲でまちのことを考えていこうとすると、なるべく多くの人と話し合っ、活動を広げていくことが大切です。まちの人たちで集まって話していこうとすると、集まれる場所や組織などについても考えておく必要があります。

まちの“自治組織”との連携

京都では自治会や町内会、自治連合会等のまちの“自治組織”※が、地域活動の中心となって活動しています。

まちの人と集まって話し合いを進める際には、自治会や町内会、自治連合会等での取組との連携も意識して進めましょう。

※ 京都市では、「学区（元学区）」を中心とした地域の自治活動が盛んです。自治組織には、町内会や自治会の連合組織である自治連合会等がありますが、地域によっては、名称や組織構成が異なっています。



町内会には 入っているけど… というような方の場合

まずは、自治会や町内会などの自治組織が、現在、どのような取組をされているのか調べてみましょう。連携できそうな取組があれば協力を求めることもできますし、新たな課題が見えているなら、あなたの問題意識を伝えることも大切です。



まちの“自治組織”で 活動される方の場合

考えたことを実現できるよう、さっそく動いていきましょう。まちをよくしていくのはあなたです！



／ご参考までに／



既存の組織だけでなく、思いのある人が参加できる仕組みも活用しましょう。



18 ページへ

地域の活動をお手伝いする様々な支援制度や相談窓口が活用できます。



46-48 ページへ

「まちをよくする」ために

4 「まちのビジョン」を まとめよう！

「うちのまちをこうしたい！」という多くの人の
思いや目標をまとめると、「まちのビジョン」になります。

幅広い人の思いを盛り込む

これまでに話し合い、考えてきたことをまとめてみましょう。

その思いや気づきに、幅広い人の思いを盛り込んでまちの人で共有していくと
「まちのビジョン」となっていきます。

目に見える形にまとめることで、まちの人に伝えていきやすくなります。伝えて
いくことで、さらに多くの人の考える「こんなまちに
したい」という思いを引き出すことにもつながります。

「まちのビジョン」
の
メリット

「まちの人みんなの
思いです！」と言う
ことができる。

マンションなどが建つときに、
建設する事業者に対して「この
ビジョンに合わせて建ててくだ
さい」と配慮を求められる。

地域ですべきこ
とが見えてくる。

まちの人に協力
が求められる。

企業や行政など
で協力してくれ
る人も出てくる。

使える手法も
見えてくる。



「まちのビジョン」があると

地域の魅力や活動、将来像を「まちのビジョン」
としてまとめているある地域では、例えばマン
ションが建つ際に、建設事業者に「うちのまち
はこんなまちなので、建て方に配慮してほしい」
と求めたり、入居者に対して「こんな魅力や活
動があるので、一緒に活動を進めましょう」とい
うことを伝えておられます。

「うちのまち」を伝える取組をされることで、新しく地域に移り住んでこられる
方が、まちに関心を持ち、一緒に活動を進めていける人になってくれる事例もた
くさんあります。 → 事例集(34～45ページ)もご覧ください。

実現を目指して取り組もう

「まちのビジョン」としてまとめていく取組や、
「こんなまちにしたい」という思いや目標の実現に
向けて、具体的に取り組んでいきましょう。



そのため、心構えや進め方のコツを、次ページからの第2章で紹介しています。